

## 審査員会議司会進行について

- ・ 会議の前に審査委員長に審査時間と審査員配置の確認をしてください  
また、受審者についての連絡事項があれば伝えてください
- ・ 立会担当者、係員に審査時間、審査員配置を伝えます

## 審査員会議

審査員の先生方が全員そろわれたか確認して始めます。

1. 「ただいまより審査員会議を行います」  
審査委員長に挨拶いただきます  
「審査委員長、〇〇先生お願いします」  
(審査員の会場配置を発表してもらいます)  
(審査時間を入れてもらいます)
2. 支部役員より  
「連絡事項を申し上げます」
  - ・ 当日の流れの説明（午前は初段、何時ごろ終了予定などです）
  - ・ 受審者の連絡事項等があれば伝える  
(配慮を要する受審者等があれば受審番号を確認しておくとい  
まだ準備段階であれば、後ほど審査委員長と会場主任に連絡する)
  - ・ その他連絡事項  
(食事会場が控室と違う場合などがあれば伝える)
3. 「先生方何かございませんか」と確認  
なければ、「審査員会議を終了します」

「準備が整いましたら審査会場へ案内します。しばらくお待ちください。」  
会議終了です。

- ・ ワッペンと渡す、受領サインをいただくなど

## 審査員反省会

審査終了後、控室に審査員全員が戻られたか確認後始めます。

1. 「ただいまより反省会を行います」  
「審査委員長、〇〇先生お願いします」  
「先生方何かございませんか」と確認  
なければ、「反省会を終了します」  
「ありがとうございました」  
審査員解散です。

## 支部審査会（三段以下）注意事項

### （開会式まで）

- ・係員との連携が大事です
- ・係員、立会者に審査員配置、実技審査時間を伝えます
- ・審査票と受審者の年齢が書かれた用紙が審査委員長と審査員の机上にあるか確認
- ・特に実技審査前、会場を歩く時など、受審者の竹刀の安全性を注意する
- ・礼法説明（係員または自分でします）
- ・審査員席の後方席に観客がいないか確認
- ・ひととおり不備がないか確認（マスク着用有無など） → 開会式

### （審査中）

- ・審査委員長の号令で開始、受審者は立礼の位置、立会者は先に入る
- ・実技開始 → 審査時間を確認
- ・審査中は危険がないかなど全体の進行に注意  
（時間がある時：マニュアルにある通り、受審者数の確認、短冊を数える等事務仕事をしていました。当日いただく支部の受審料写しで最終的な書類作成をしていました。）
- ・実技合格発表前に「読み合わせ」確認をする

### （学科試験）

- ・実技合格発表時、番号順に並ぶことで合格者を確認する  
（番号順に並べるにより、全員学科提出の確認も兼ねています）
- ・学科問題について、実技合格者が並んでいる時  
答案用紙は支部名であるか、2～3行ではないかなど注意（特に初段）  
（支部役員先生は答えを知っておいてください）
- ・学科答案用紙を主任のところへ取りに行く、可否を聞き、審査委員長に報告

### （剣道形）

- ・受審番号シールが左右大垂についているか確認
- ・形審査時、特に三段など危険がないよう間隔を確認する

### （閉会式）

- ・形、学科不合格者の対応、会場隅などで再受審の説明  
（係員にお願いした方がよいと思います、役員の先生は会場内にいてください）
- ・不合格者の退場を確認後、閉会式を行います
- ・審査委員長講評の中で「全員合格です」と述べてもらってください

### （問題があれば）

- ・遅刻者などの対応、必ず審査委員長に相談してください

## R07.02.18 審査委員会

|           | 各地区審査委員                                                                                                                                                          | 神奈川県剣道連盟                                        |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 審査申込後     | 各地区受審者数が確定次第、<br>三段以下審査会受審料内訳表を送付、<br>受審料を振り込む。<br>(メール送信可)                                                                                                      | 受審者数から会場数決定<br>地区へ合格証、受審シール、<br>審査委員長等のワッペンを送付。 |
| 開催前<br>審査 | 係員謝礼をとりに県連事務局に<br>来る。                                                                                                                                            | 審査員名簿送付(交通手段含)<br>審査員謝礼領収書送付。<br>(メール送信)        |
| 当日<br>審査会 | 審査会運営                                                                                                                                                            |                                                 |
| 審査終了後     | 合格者集計後<br>下記、書類等県連に送付又は持参する<br>①審査結果表<br>②登録料内訳表<br>③弁当・会場使用料領収書<br>④短冊                      ①・②・③・⑥は<br>⑤集計表                      メール送信可<br>⑥剣道形審査表<br>⑦審査員ワッペン |                                                 |

## 段審査会・立会担当者の手順と心得

神奈川県剣道連盟

平成 22 年 5 月

平成 23 年 7 月

平成 28 年 11 月

平成 29 年 11 月

(一部改正)

- \* 立会いの担当者は昇段審査会を、安全・公平・順調に進行させる重要な任務です。
- \* 受審者に対し剣道界の先輩として、分かりやすく・親切・丁寧な対応をして下さい。
- \* 服装は審判員の服装、またはスーツとします。(夏場の審査では、上着無しで可)

### 《 実技審査 》

- 1、ストップウォッチをセットします。  
(使い方は、説明書があります。セット時間は、開始前に責任者から指示があります)
- 2、審査開始前に、受審者を番号順に整列させます。会場が狭い場合や人数が多い場合は、審査を進めながら整列させます。
- 3、審査時は左手にストップウォッチを持ち、端正な姿で立ち、発声は明瞭にします。
- 4、直立して「始め」、右手を高く上げて「止め」、右手を前に出して「それまで」と宣告をします。
- 5、相互の礼をした後、(特に初段では)前に進み出ない人が出てきます。「前に出て蹲踞して下さい」と、大きな声で促します。《重要な任務です》
- 6、開始線から離れたりしていても、試合と違い直す必要はありません。それも審査対象です。(但し、危険性があり、または不公平な状態の時には修正させます。)
- 7、着装と竹刀に危険な要素が無いか、素早く点検します。
- 8、途中で転倒・竹刀操作不能等で中断時間があつたときは、その所要時間は、自分の裁量でそれに見合った時間を延長して「止め」をかけます。
- 9、2人が審査員から遠く離れてしまった場合には、近づいて大きな声と手の合図で「審査員の前でやりなさい」と指示し、むやみに中断しないようにします。  
(但し、隣の会場の審査の障害になるときや、危険がある場合には、即中断して元の位置に戻します。)

- 10、二刀を使う人と対戦する受審者には、全剣連の審査と同様、その人と対戦した2人をもう一度対戦させ（3人目の対戦をすることになります）、均等な機会を2回与えて、公平な審査を図るようにします。（審査主任に報告、承認をいただってください。）

＜例＞ 1・②・3・4・5 で②が二刀の受審者の場合

1・②、②・3、3・4、4・5、5・1と対戦した後、1・3の対戦をさせます。

## 《 学科審査 》

- 1、実技合格者に、予め書いてきた学科審査の「答案」を持たせ、審査員の前に審査員の人数の列で合格番号順に並ばせます。全員が氏名・受審者番号を記入しているか確認させて、審査員に答案を提出させます。

## 《 形審査 》

- 1、3組6名で行う事を原則とし、十分な間隔（特に横の間隔）で危険がないか確認します。  
最後が1組になる場合は、最後の2グループを2組4名で行わせます。
- 2、組み合わせが決まったら、打太刀は右側の大ダレに、仕太刀は左側の大ダレに受審番号のシールを張り替えさせます。
- 3、木刀を反対や逆さまに持っている人に、注意をして直す必要はありません。  
（それも審査対象項目です）
- 4、最初の組が定位置についたら「日本剣道形○本を行います」と発声します。  
（この発声は、二組目からは省略）
- 5、右手を上げて「こちら、打太刀」、左手を上げて「こちら、仕太刀」と、取り違いが無いよう、ゆっくりと明瞭に発声、続いて「始め」で開始させます。
- ~~終わりの礼が終了したら、「正面を向ってください」と促して審査員と正対させ、審査主任から合図があったら「退場」と発声します。（審査員への礼は不要です）~~
- 6、続いて「次の組、入場」と発声します。
- 7、1名が残る場合は、先に終了した受審者から1名を選び、相手をお願いしてもらいます。（お願いした人の垂は、外してもらいます）

令和5年4月14日

審査担当常任理事  
田島東海男

### 神奈川県剣道連盟昇段審査実技審査時間について

新型コロナウイルス感染症も終息に向かい、コロナ化以前の態勢に戻すため昇段審査会実技審査の時間を検討してほしい旨、事務局長川村先生から依頼がありましたので、審査担当の先生方と検討した結果、以下のように決定したので報告致します。

#### 記

初級（初段から三段）、中級（四段・五段）で実技審査時間を分ける。

初級（初段から二段）：「<sup>70</sup>初め」から30秒とする。  
（三段）：「<sup>40</sup>初め」から40秒とする。

中級（四段・五段）：「<sup>40</sup>初め」から50秒とする。

理由：「応用技の錬熟度」を見るため、初級より10秒時間を長くした。

※上記時間を基準とする。受審者数が多い場合は「相互の礼」からとする。

その場合は、審査当日の審査委員長と相談の上決定する。

以上